



松波っ子 道徳だより

平成 27 年 7 月 10 日
能登町立松波小学校
道徳だより No. 4

6 月祖父母学級（道徳授業参観）についてアンケートをお願いしたところ、多数のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

一昔前とは違い、人や地域とのかかわりが希薄になっていると言われる今、道徳教育の大切さを感じているというご意見が多数ありました。また、授業づくりや子ども達の様子で気づかれたことも多数寄せていただきました。保護者の方々の思いを受け止め、よりよい道徳教育につなげていきたいと思えます。少しずつですが、感想を紹介します。

はじめはずかしそうでしたが、時間が経つにつれて、手が挙がったり発言があつたりしたので、この子達なりに考えているんだなあと思えました。まだまだ気持ちのコントロールができない年代だと思うので、道徳の授業を通して、思いやりや優しさ、許すことなどの大切さを学んでいってほしいなと思えました。

（1 年保護者）

うさぎ、リス、たぬき、くま、キツネ、みんななかよしだったら楽しいね。思いやりの心を大切に育てよう。

（1 年祖父母）

家ではほとんどお手伝いをしないのですが、「これからおつかいにいく！」と言って張り切っています。お買い物袋とカードとメモを持たせようと思っています。

（2 年祖父母）

後半で、おじいちゃんおばあちゃんからのメッセージは本当にあたたかい言葉で感動しました。私達親の世代にとっても心に響きました。人生の先輩からのメッセージをおねがいする授業をぜひ続けてほしいです。

（2 年保護者）

人とかかわりの中で道徳はとても大事なことだと思います。私たちの時代は親、兄弟、世間の人との中で、自然とあたり前のように身に付けてきたと思います。これから、人の気持ちのわかる思いやりのある子供に育てられることを願っています。

（3 年祖父母）

子供達の「お手伝いしてるよー。」という素直な率直な意見を元気な声で聞いた時や、他の子の発言を静かに聞いている様子に、うれしく思いました。先生の授業の内容など、大切な事を子供に教えていただいていることに有り難く思いました。

（2 年祖父母）

道徳の授業は算数や国語のようにきまった答えがあるわけではないので、いろんな意見や思いもよらない答えがあつて、とても良い授業だと思いました。道徳を通して、命の大切さやいろんな人の思いを感じ取れるようになってほしいです。道徳教育に力をいれていく。賛成です。

(5年保護者)

神主さんの話で、行事ごとの中にも当たり前すぎて気づかない道徳があることを改めて感じました。ありがとうございます。

(4年祖父母)

先生のわかりやすいお話で、他人に感謝を求めることでなく、自分がその事の喜びを感じる奥深い人間になる大切さを教えていました。道徳教育は大切な事。今後力を入れてください。

(6年祖父母)

道徳公開授業は算数や国語と一味違った内容で、子ども達も命の大切さを深く感じ、大切にしたいと思う勉強ができたのではないのでしょうか。今後も益々、道徳教育もそのほかの勉強も教えてやってください。

(5年祖父母)

「ごみ出しまかせて」を勉強し、「すごい」と感じて思っても、なかなか行動にうつせないのが現状ですが、いつか何も言わなくても、私にまかせてといえるようになってもらいたい。

(6年保護者)

授業では、グループ毎の話し合いに参加しましたが、子ども達がしっかりと命について考えて意見を述べていたことに感心しました。わたしも意見を求められましたが、「なんで？」という問いに答えるのは難しいものだなと感じました。お互いの意見を尊重し、受け入れていく姿をみて、とてもあたたかい気持ちになりました。道徳を通して、命の大切さや思いやりの心を育てていけたらいいなと思いました。

(5年保護者)